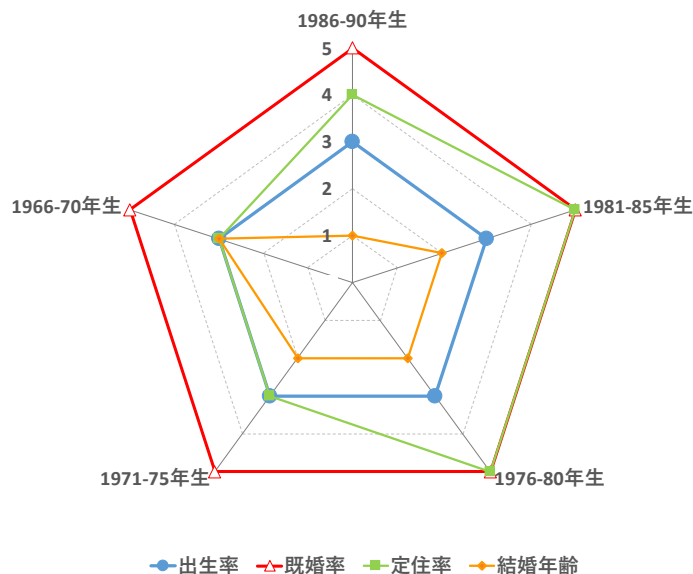


(28) 刈羽村

①出生に関する総合評価

図28-1 コホート別総合評価



注：各コホート別の新潟県30市町村内の順位を5段階で評価している。

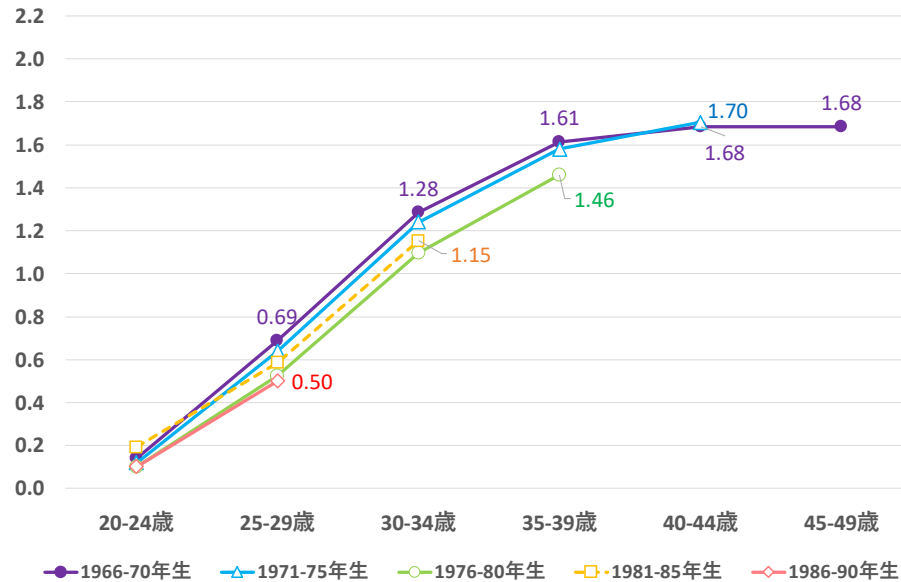
1. 合計出生率は、すべてのコホートで中位である。
2. 女性既婚率は、すべてのコホートで最上位である。
3. 女性定住率は、1966-70年生まれと1971-75年生まれは中位、1986-90年生まれは上位、1976-80年生まれと1981-85年生まれは最上位である。
4. 女性結婚年齢は、1966-70年生まれは中位であるが、1971-75年生まれから1981-85年生まれまでは下位、1986-90年生まれは最下位である。

【総合評価】

1. 刈羽村は、結婚年齢が全コホートで中位以下である以外は、既婚率は全コホートで最上位であり、定住率も1970年代後半生まれ以降は上位で高いグループに属する。しかし、合計出生率は全コホートで中位に属している。
2. 子どもが産まれる確率が最も高い25-34歳の出生数は、1970年代後半生まれから1人を下回り、さらに20歳代後半の出生率が低下傾向にある。今後、25-34歳の出生率が1人を回復できるかは、30歳代でのキャッチアップがどの程度達成できるかに依存する。
3. また、刈羽村は、1980年代後半生まれの男女間の既婚率の差が大きいことから、早期に男性に対する対策を講じることも必要である。

②コホート合計出生率

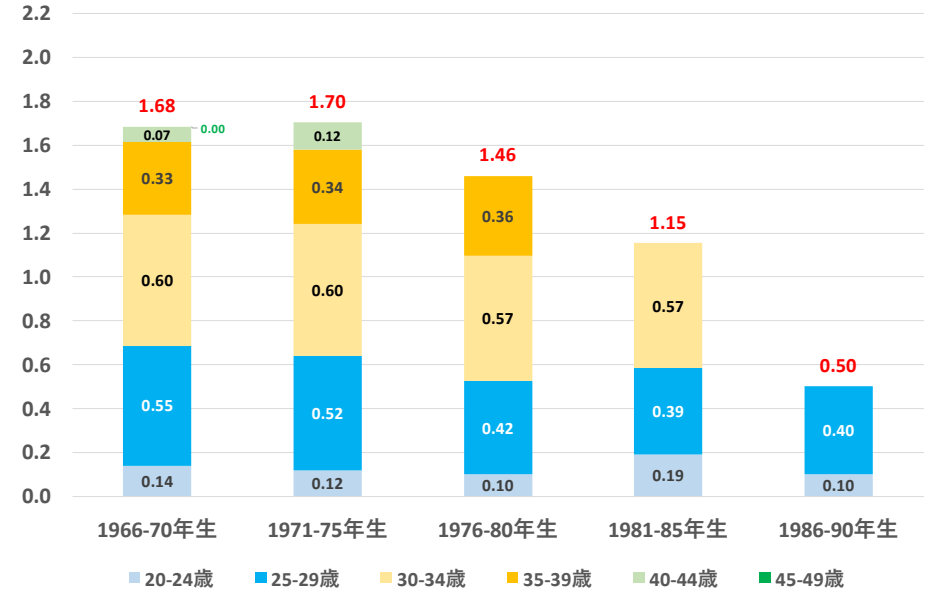
図 28-2 コホート合計出生率の推移



注：新潟県「福祉保健年報」より作成。

- ・ 図 28-2 は、刈羽村のコホート合計出生率の推移を示している。
- ・ 県内他市町村と異なり、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれの差がごくわずかであり、これらと 1976-80 年生まれ以降のコホートとの間に 25-29 歳以降で合計出生率の低下がみられる。
- ・ 1976-80 年生まれと 1986-90 年生まれのコホートが、最も合計出生率が低下している。

図 28-3 コホート合計出生率の年齢区分別内訳

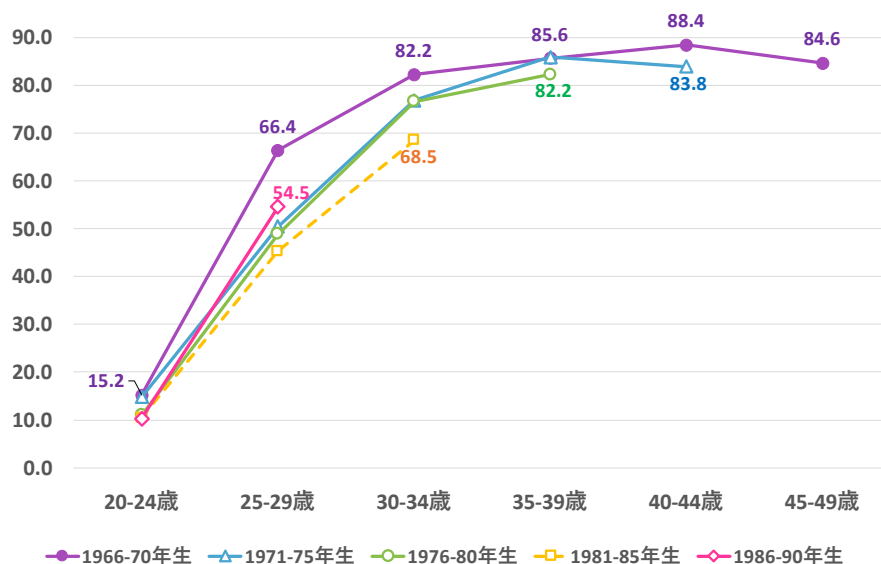


注：新潟県「福祉保健年報」より作成。四捨五入のため内訳の計と合計が一致しない場合がある。

- ・ 図 28-3 は、コホート合計出生率の年齢区分別内訳を示している。
- ・ 20 歳代の出生数は、1966-70 年生まれコホートの 0.69 人に対して、1986-90 年生まれは 0.50 人に減少している。30 歳代では 1966-70 年生まれの 0.93 人に対して、1976-80 年生まれは 0.93 人で安定している。
- ・ 晩婚化のため 20 歳代の出生率が低下しているが、30 歳代でも 1971-75 年生まれから 1 人が生まれていない状況が続いている。
- ・ 子どもが産まれる確率が最も高い 25-34 歳の出生数は、1976-80 年生まれから 1 人を下回っており、1981-85 年生まれは 0.96 人に減少した。

③コホート別既婚率

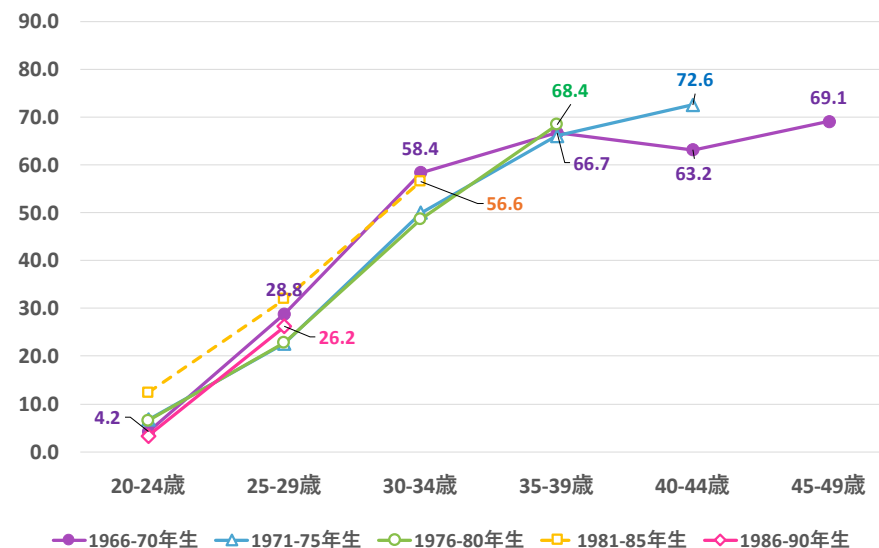
図 28-4 コホート別既婚率の推移(女性) 単位：%



注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 28-4 はコホート別の到達年齢までの女性既婚率の推移を示している。
- ・ 25-29 歳以降で、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれ以降の間に既婚率の大幅な低下がみられる。さらに、1971-75 年生まれとそれ以降のコホート間でも、25-29 歳と 30-34 歳時点の低下がみられる。
- ・ 25-29 歳の既婚率は、1966-70 年生まれの 66.4%から 1986-90 年生まれは 54.5%へと 11.9 ポイント低下し、35-39 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 85.6%から 1976-80 年生まれは 82.2%へと 3.4 ポイント低下している。1986-90 年生まれの 25-29 歳の既婚率が 54.5%と県内で最も高い。

図 28-5 コホート別既婚率の推移(男性) 単位：%

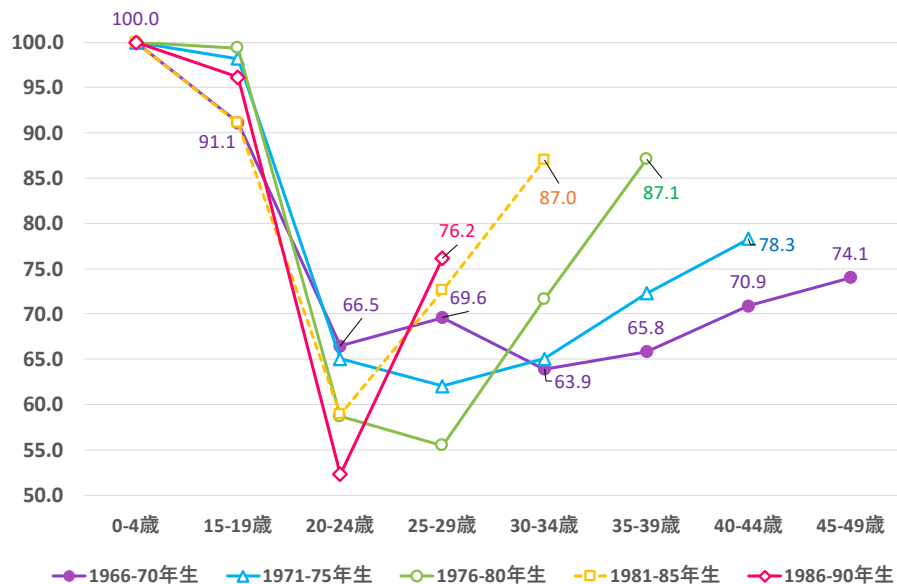


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 28-5 はコホート別の到達年齢までの男性既婚率の推移を示している。
- ・ 男性既婚率は 1970 年代生まれで低下するものの、1980 年代生まれは 1966-70 年生まれと同程度に回復している。
- ・ 25-29 歳の既婚率は、1966-70 年生まれの 28.8%から 1986-90 年生まれは 26.2%へと 2.6 ポイント低下している。35-39 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 66.7%から 1976-80 年生まれは 68.4%に 1.7%増加している。
- ・ 女性既婚率は 35-39 歳で 80%台前半に達する。男性は 60%台から 70%台前半止まる。

④コホート別定住(残存)率

図 28-6 コホート別女性定住率 単位：人口指数

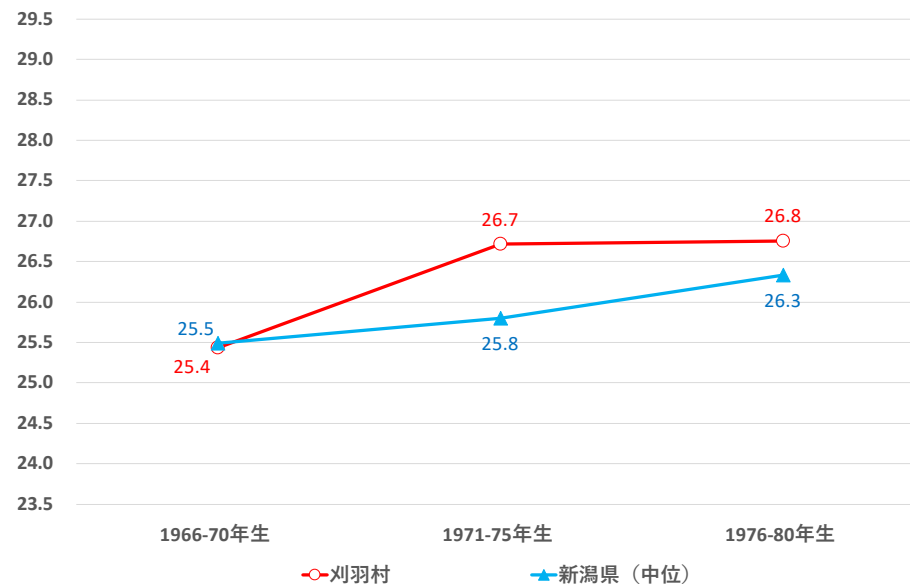


注：0-4歳人口=100。「国勢調査」より作成。

- ・ 図 28-6 はコホート別の到達年齢までの定住率の推移を示している。
- ・ 25-29歳における女性定住率は、1966-70年生まれの69.6から1986-90年生まれは76.2に6.6ポイント上昇しており、35-39歳における女性定住率は、1966-70年生まれの65.8から1976-80年生まれは87.1に21.3ポイント増加している。
- ・ 刈羽村では、25-39歳時で見ると、1980年代生まれは、20歳代前半で0-4歳時点の50%台に減少するが、20歳代後半以降は1970年代生まれ以前の cohorts よりも高い70%から70%台後半の水準まで回復している。

⑤コホート別女性平均結婚年齢

図 28-7 女性平均結婚年齢 単位：歳

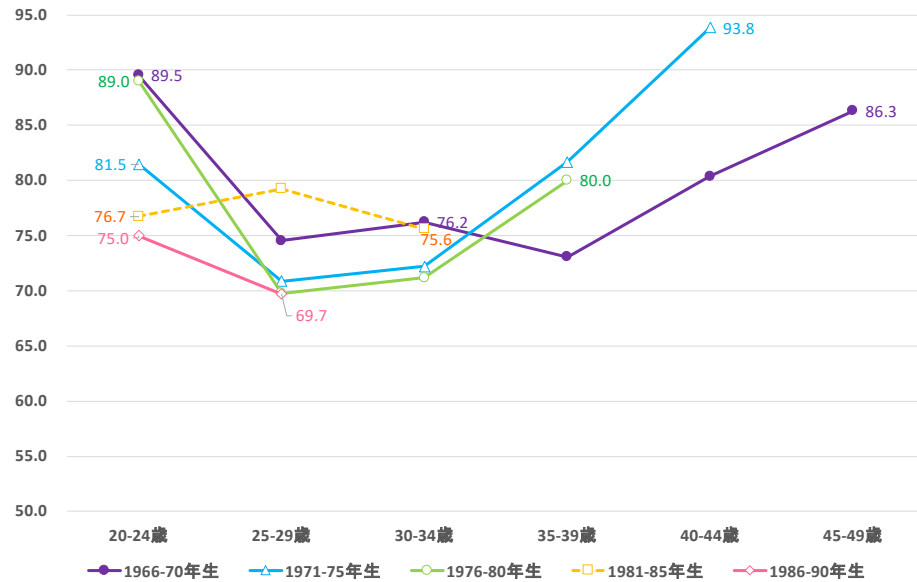


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 28-7 はコホート別の35-39歳までの女性平均結婚年齢を示している。
- ・ 1966-70年生まれ、1971-75年生まれ、1976-80年生まれの35-39歳までの女性平均結婚年齢は、それぞれ25.4歳、26.7歳、26.8歳である。1966-70年生まれと比べて、1976-80年生まれは1.4歳だけ平均結婚年齢が遅れている。
- ・ 1966-70年生まれの県内順位は13位と県内平均(中位)程度だったが、1971-75年生の県内順位は29位、1976-80年生は24位と平均結婚年齢が県内平均(中位)より遅い自治体となった。

⑥コホート別女性就業率

図 28-8 コホート別女性就業率 単位：%

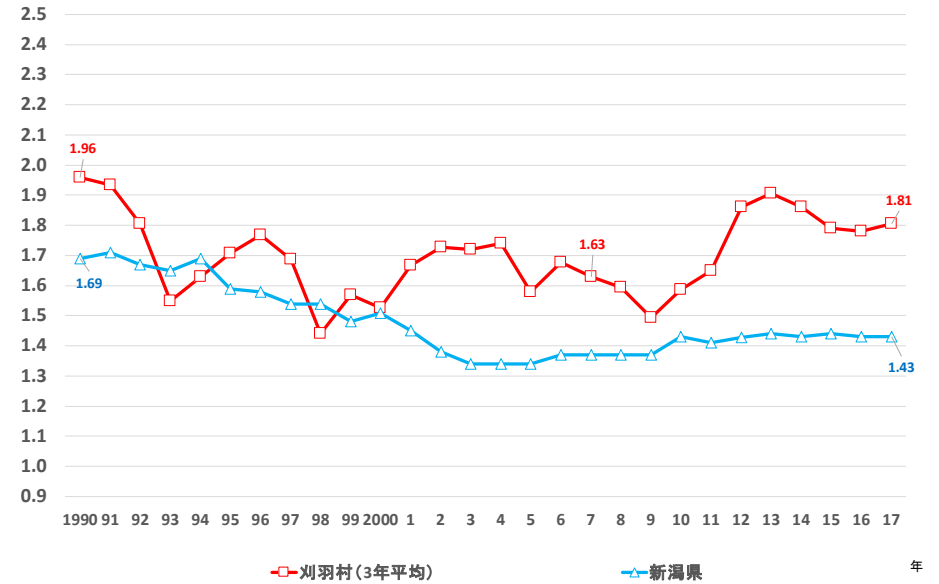


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 28-8 はコホート別の女性就業率の推移を示している。
- ・ 20-24 歳から 25-29 歳までの女性就業率の変化を見ると、1981-85 年生まれでは上昇しているのに対し、それ以外のコホートでは低下している。
- ・ 30-34 歳の女性就業率を見ると、1966-70 年生まれが 76.2% と最も高くなっており、他市町村と傾向が異なる。
- ・ 1981-85 年生まれまでのすべてのコホートで 20-29 歳と 30-34 歳時点で M 字カーブが確認される。

⑦期間合計特殊出生率

図 28-9 期間合計特殊出生率の推移



注：市町村の出生率は 3 年間の移動平均値である。新潟県「福祉保健年報」より作成。

- ・ 図 28-9 は、1990 年から 2017 年までの新潟県平均と刈羽村（3 年平均）の期間合計特殊出生率の推移を示している。
- ・ 1999 年以降で見ると、刈羽村の期間合計特殊出生率は 1993-94 年、98 年を除いて新潟県平均より高く、期間平均では 0.22 ポイント高い。
- ・ 刈羽村の期間合計特殊出生率は、1990 年以降低下しているが、1998 年の 1.44 を底に上昇傾向で推移し、2017 年には 1.81 まで改善している。